

〔様式1〕 協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	キッズフェスティバル
28年度募集テーマ	<input checked="" type="checkbox"/> 『笑顔』 <input checked="" type="checkbox"/> 『場づくり』 ※該当テーマに <input checked="" type="checkbox"/> してください。
テーマとの関連	<p>◎テーマをどのように受け止め、貴団体の取組と合致すると考えたのかをお書きください。</p> <p>キッズフェスティバルの合言葉を3年前より、「みんなでつくる！外遊びのおまつり」としました。参加者ひとり一人が主体者となり、みんなの力で、誰もがそこにいていいと思える笑顔いっぱい場づくりができています。</p> <p>参加者、高校生を含む100人を超えるボランティアは勿論、広告協賛を下さった企業や団体。工具等を貸して下さっている小学校や中学校。木工作の木片や段ボール等材料を提供して下さる方、電線ドラムや土を運んで来てくださる方、プレーリーダー、凧作りや竹馬等の講師、自然体験リーダーズクラブ、国立吉備少年自然の家の方、資材設置や警備の方、バザー関係の方、公園協会等も含む行政等本当に多くの方が関わってくださっています。</p> <p>昨年度は、お天気にも恵まれ、広い浦安総合公園西地区（子ども夢が島）が12500人の笑顔であふれ、楽しい春の一日になりました。</p>
目的・解決をはかりたい課題の状況・目標	<p>◎取組の目的、解決をはかりたい社会課題の状況把握・ニーズ把握、解決後の姿（目標としている状況）などについて記載してください。</p> <p>子どもが「遊ぶ」空間・時間・仲間の減少、人と関わる機会の減少等により、子どもが健全に育つ社会環境の悪化が深刻化しています。</p> <p>子どもたちの笑顔を願うことは、すべてのひとの願いであり、未来への希望です。そのためには、安心して子育てができ、若者や女性が輝くまちづくり、豊かな自然と調和した市民の手による持続可能なまちづくりが必要であり、それを実現するためにも、多様な主体のつながりが大切です。</p> <p>キッズフェスティバルをそれらのモデル例として、岡山市子どもセンターの目的である「子どもたちの豊かな成長」に寄与していきたいと思えます。</p>
取組の内容	<p>1 取組の対象：対象地域、対象者、対象人数等 地域：岡山市を含む近隣市町村 対象：子どもを含むすべての市民 12500人</p> <p>2 取組の担い手：取組への参加団体、参加人数等 岡山市子どもセンター 50人 学生ボランティア 市内高校90人、県内大学22人 公益財団法人岡山市公園協会 6人 吉備少年自然の家 3人 NPO法人タブラサ（有機生活マーケット いち@おかやま） 20人 学生イベント企画団体とり.ous 10人 自然体験リーダーズクラブ 7人 岡山風友の会 1人 上ノ山工房 3人</p> <p>3 活動内容、実施方法などを具体的な活動ごとに箇条書きでお書きください。</p> <p>12月 実行委員会の立ち上げ 当団体で目的や内容、スケジュールを確認する 1月 広告協賛を集める（273口） 開催のための経費は、理事や会員を中心に、企業や学校、病院などの団体や個人商店に伺い、協賛金を集めています。一件一件足を運び、趣旨に賛同していただくことを大切にしています。子どもを中心に据え、顔の見える協力の輪が広がっています。</p> <p>1月 学生ボランティア募集、チラシの配付 学校に足を運び、趣旨を説明し、その学校に応じたボランティアの募集を行っています。</p> <p>3月初旬 広報チラシを岡山市保育園、幼稚園、小学校へ配付（60000枚）</p>

	<p>学校、園へクラス単位の枚数にして、届けています。</p> <p>3月中旬 ボランティア養成講座</p> <p>3月下旬（当日）プレーパークの開設及び児童健全育成団体による屋外遊びの開設 プレーパークの開設及び児童健全育成団体による屋外遊びの開設 斜面を利用した大型すべり台、ノコギリやかなづちを使って作る木工、火を扱う体験として直火焼きパンやベッコウあめづくり、凧づくり&凧あげ等々、子どもたちの遊び欲求を刺激する遊びにこだわって開催を継続しています。 日常の遊び場「おかやまプレーパーク」での経験をもとに、実行委員会や理事会等でしっかりと議論し企画・運営してきたことで、子どもが主体となる遊び場になっていると思います。</p> <p>5月 広報誌の発行 事業実施後の成果をまとめた広報誌を発行し、協賛・協力団体や関係の行政機関などへ配付しています。子どもやボランティアの様子、声などを広く発信することで、子どもの育ちと遊びについて考える人を増やしていきたいと考えています。あわせて、支援してくださっている方々には、感謝の意を込め、また継続した支援につながると考えています。</p> <p>4 取組をWEB等で告知している場合はそのURLをお書きください。</p> <p>URL http://www.kodomo-npo.jp FB https://www.facebook.com/kodomonpo.okayama/</p>
協働の体制	<p>◎協働する各団体の役割分担や、団体間の目的の共有の仕方、対等な協働関係を築いていくための工夫など、具体的に記載してください。</p> <p>協働する各団体は、キッズフェスティバル当日の各種遊びや食べ物バザーを担当しています。毎年、実行委員会のスタートにあたって、子どもたちの状況を話し合ったり、何のためにキッズフェスティバルを実施するのか、子どもたちにどんな遊び体験の場が必要なのか、子どもたちの遊びに関わるボランティアは、どうあったらよいかなどの議論を重ね、目的を共有することを大切にしています。ボランティアスタッフ養成講座や開催のための様々な準備を一緒に行う準備過程で、より目的を深め合うことができます。併せて、事業終了後には、ふりかえりの会を大切に行っています。長年続けてこられたのも、このようなしっかりと話し合いと協働で作り上げるというスタンスのなかで、前年の課題を解決し、内容をより豊かなものにし続けてこられたこと、関わるすべての人たちが成長し続けられる場所であると共有できたからだと考えています。</p>
取組の工夫 取組の特徴	<p>◎地域資源や人的資源の活用など工夫した点を記載してください。</p> <p>多くの企業や団体からの広告協賛金をいただき、バザー等の寄付をあわせ開催経費を生み出しています。参加費を徴収しないで、だれでもが参加できるようにできているのは、多くの方たちの支援によるものだからです。岡山にあるこうした理解ある企業や団体の掘り起しも地域資源の活用といえると思います。</p> <p>◎取組の特徴やアピールポイントを記載してください。</p> <p>①質の高い遊びの提供： 「規制」や「禁止」、「大人の指導や管理」の遊びではなく、子どもの遊ぶ欲求を高め、工夫できる素材の提供等、ボランティアスタッフの見守りのもと、自分の責任で自由に思いっきり遊ぶという遊びの質にこだわって企画・運営しています。</p> <p>②子どもに関わる団体の協働が生み出すフェスティバル： 子どもに関わる様々な団体と一緒に取り組んでいます。日頃の子どもに関わる活動を持ち寄り、それぞれの経験から、子どもの体験活動の大切さを交流し、企画内容の質の向上にもなっています。また、ボランティア養成講座を事前に開催し、子どもや子どもの遊びへの理解を深め、自信を持って当日子どもを見守ることができるようにしています。ボランティアは、指示されて動くのではなく、自分で考えて動くことができるよう「考動」することをキーワードに学び合っています。</p> <p>④16年間の継続： 16年間のべ10万人以上の参加者、のべ2000人のボランティアが関わってきたことも誇りある特色だと思っています。</p>

<p>成果・効果</p>	<p>◎取組を通じて得られた成果や、解決した社会課題の状況、また関連した地域への効果や変化などを記載してください。</p> <p>1年に1回の開催ではありますが、16年間継続することで、子どもも大人も関わり合いながら学び合いながら成長し続けていくことが循環していくことを確信しました。このように、多様な主体が関わり合いながらまちをつくり、持続可能な未来を作っていけると思います。</p> <p>①子どもが育つ遊び文化の発信：16年間でのべ10万人の参加者ですが、子どもだった参加者が学生ボランティアとして参加したり、親となって子どもと一緒に参加するなど、遊びの文化が広がり、継承されていることを実感しています。</p> <p>②1年に1度のキッズフェスティバルは、様々な文化の主体性の場となっています。常設の1か所と市内10カ所でプレーパークを開催できるようになったこと、30小学校区での夏休みフリー塾（子どもの居場所づくり）を開催していることは、体験活動の充実にもつながるなど、「体験活動の質」を高めながら、遊びの機会を広げていくことができていると思っています。</p> <p>③協賛・協力企業等が継続していること、数が増えていることも、子どものことを支援したいという思いの広がりを感じています。</p> <p>④こうした取り組みの中から、子どもにとっての体験活動の意義を考え合う場をつくることもできました。</p>
<p>今後の活動展開など展望</p>	<p>◎成果の普及や今後の活動展開など展望について記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より多くの子どもに関わる団体とつながり、学び合い、一緒につくっていききたい。 ・キッズフェスティバルからの遊び文化の発信力を高め、地域で豊かな遊びが展開できるようにその原動力を作り出したい。 ・子どもや大人の成長、変化を伝え、体験活動の意義を広めていきたい。 ・スマホやコンピューターの普及のなかで、五感を使った遊びのおもしろさや手作りのおもしろさを子どもにも大人にも発信していきたい。 ・子育てが楽しくなることを応援していく場にしていきたい。 ・社会全体で子どもが豊かに育つ環境をつくっていくことの重要性、緊急性を発信していきたい。 <p>子どもも含めだれもが尊重され、社会の課題解決をしていく主体者となる社会の実現に向けて多様な主体でキッズフェスティバル等様々な事業を継続し、子どもも含めだれもが尊重され、社会の課題解決をしていく主体者となる社会の実現を目指したいと思います。</p>

あど.ねっと

A.あそぼう D.どんどん O.おおきくならう。ひろげよう。

42号

2016年 5月27日発行

特定非営利活動法人

岡山市子どもセンター

〒701-0144 岡山市北区久米348

Tel : 086-242-1810

Fax : 086-242-1830

http://www.kodomo-npo.jp/

e-mail : info@kodomo-npo.jp

みんなで作る！外遊びのおまつり

キッズフェスティバル2016では、12,500名の参加者と、3名のプレーリーダー、112名の高校生・大学生・大人のボランティアと一緒に子どもの自由な遊びの場を作りました。



キッズフェスティバル 2016

2016年3月27日(日)
浦安総合公園西地区

2001年から始まったキッズフェスティバルは今年で16回目を迎えることができました。

今年は、1週間前の高校生・大学生中心のボランティア養成講座を含め、準備2日間も当日も快晴続きでした。

目的には、当初から「子どもの遊び欲求を刺激するような楽しい遊びの場、異年齢の多くの人がふれあう場の提供と市民参加」を、テーマには「子どもの育ちと遊び」を掲げました。合言葉は、「みんなで作る！外遊びのおまつり」とし、ボランティアスタッフのキーワードを、自ら考え行動する「考動」とし、子どもたちを含め参加する全ての人たちで作っていくことを大切にしました。273口の協賛広告をしてくださった企業や法人はもとより、開催にあたり協力を頂いた行政、高校や大学、企業、多くの市民、また告知チラシを配付してくださった保育園・幼稚園・小学校、その他いろいろな側面で支えてくださった方々のお顔を思い浮かべ、感謝の気持ちでいっぱいです。

社会全体で子どもの育ちを支援していくという岡山市子どもセンターの想いが、徐々にではあります、手ごたえとして感じられるキッズフェスティバルとなりました。今後さまざまな事業を、多くの方々と協働し、子どもたちと一緒に子どもが豊かに育つ環境づくりをしていきます。

実行委員長 美咲美佐子

特集 キッズフェスティバル 2016

2016年3月27日(日)10時よりキッズフェスティバル2016がスタートしました。公園はたちまち多くの親子でいっぱい。遊びのコーナーは、子どもたちの「やってみたい」気持ちと「できた」喜びに、笑顔がはじけていました。

遊びのコーナー
大型すべり台・べっこうあめ・直火焼きパン・木工作
凧づくり&凧揚げ・ペーゴマ・ロープ遊び・砂場遊び・ホッケー
ままごと・ゲート・水の遊び・ブランコ・木の実の工作・竹馬・RUN



最初是人見知りでもとても不安な気持ちになったキッズフェスティバル。準備を進めていくうちにたくさんの人とふれあい、意見を出しひとつのものを作り上げることが出来ました。当日はたくさんの子もたとふれ合うことができ、とても充実した一日を過ごすことが出来ました。(高校生)



大型すべり台 (高校生)

子どもの体力はすさまじいもので、ついていけない時もあったけど「おにいちゃん滑ろう」と言ってきてくれた時は、喜びを隠すことが出来ませんでした。

ゲート (大学生)

子どもに「自由に遊んでいよ」と言うと、上手く遊ばなくて、「少しこうしてみる?」の声掛けて、そこから自由にテープを貼っていったので、おもしろいと思いました。

大型すべり台



直火焼きパン (高校生)

たくさんの人たちとコミュニケーションがとれたし、人の笑顔が真近に見れて良かったです。人に伝えることは大変だけど、伝わった時は本当にうれしかったです。

ボランティアの様子

3月20日(日) 養成講座



3月25・26日の準備



ペーゴマ (高校生)

とても多くの子どもたちが来てくれて、一人ひとり手伝っている間に、自分の技術も上達したと思います。その時のひとりに先生と呼ばれたことがありまして、「先生?そうか、子どもたちから見れば、自分は十分大人なんだ」と気づきました。

木の実の工作 (高校生)

言葉では表せない楽しさと、感動がありました。感無量です。いやあ〜かわいかった!

木工作 (高校生)

思った以上に人が来て大盛況でした。釘を渡す時にいる人々に「ありがとう」と言われて嬉しかったです。たくさんの方が「楽しい!」など喜びの声が聞こえたので、やってよかったなと思いました。

ゼロ!

竹馬 (高校生)

今までの準備の苦勞が報われるくらい、とても楽しい日となりました。子どもについて来た大人も子どもそっこので熱中している人も見かけました。竹馬がもしかしら一番人気だったかもしれないくらい、ずーっとたくさんの方が来てくれました。

キッズRUN 42.195 (大学生)

42*はほぼムリ、21*いければ大成功と最初は思っていたけど、走る距離で本気で競い合う子どもたちと、その熱意にひかれてやってくる大勢の子もたちのおかげで、なんと100*!! まったく予想もしてなかった。超エネルギッシュな子どもたちのパワーを見せつけられました。



キッズRUN

凧づくり&凧揚げ (高校生)

一人の女の子が、凧に自分の絵と名前を書いてそれで終わりかと思ったら、私の似顔絵と名前を書いてくれたことが、すごくうれしかった。

水の遊び (大学生)

想像していた以上に多くの人が来てくれたこと、お父さん方が真剣に作っていたことが心に残りました。



水の遊び



大相撲

ロープで綱引き

ペーゴマ

木の実の工作

木工作

べっこうあめ

砂場遊び

凧づくり・凧揚げ

竹馬

■共催 (公財)岡山市公園協会 ■参加・協力団体(順不同) 岡山市立浦安小学校、岡山市立芳泉小学校、岡山市立芳泉中学校、岡山市立福浜中学校、岡山市立御野小学校、岡山県立岡山南高等学校、岡山学芸館高等学校、就実高等学校、第一学院高等学校、岡山理科大学附属高等学校、岡山高等学校、岡山県立岡山一宮高等学校、明誠学院高等学校、中国学園大学・短期大学、岡山県漁業協同組合連合会、岡山市浦安スポーツ少年団ソフトボール部、岡山市浦安土地改良区、福岡山太建、福岡輪建設、株光プレカット、岡山根材木店、吉備木工機、戸田挽物木工術、南二葉木工所、吉備急送荷、明和製紙原料株、湧永公園岡山工場、衛河田商店、久山木材商会、設計工房根、有機生活マーケットいち、(一財)岡山県青年館、自然体験リーダーズクラブ、国立吉備青少年自然の家、木村俊夫(日本の凧の会)、柿本章雄(上ノ山工房)、学生イベント企画団体とり.OUS (敬称略)

未来の社会は 子ども時代の 体験がつくる



プレーリーダー
松田 秀太郎
(ヒデ)

楽しいことに、人は集まります。大型すべり台に、木工作、木の実の工作、直火で焼くパンづくり、べっこうあめづくり、凧づくり&凧あげ、竹馬、ベゴマ、ロープ遊び、42.195キロランなど、どのコーナーも人が集まっていました。たくさんの方が集まるから楽しいんですね。どうして、これ程の人が集まるのでしょうか？キッズフェスティバルの価値を考えるヒントがありそうです。

大人は、考えています。日頃、子どもたちは、充分に外遊びをしていない。思いつきり身体を動かして遊んで欲しい。子どもたちに、もつと外遊びを楽しむ機会をつくりたい。子どもが他の子どもに刺激を受け、一緒に遊ぶ姿が嬉しい。子どもが喜ぶ顔が見たい。魅力的な遊び環境も少なくなっている。どうしたら、いいんだろう。

未来の社会は、子ども時代の体験がつくると思っています。今年も岡山の春名物のひとつ、外遊びのおまつり『キッズフェスティバル』を、皆さんと楽しみました。

子ども・遊び・未来

子どもの本当の遊び



備前プレーパーク
プレーリーダー
鎌田 真輝
(バズ)

私は大人が用意した遊びは子どもにとつての遊びではなく、子どもがやりたいと思ってしまうことが本当の遊びだと思っています。実は子どもは少し危険な遊びが好きです。例えば火を使ったり、木に登ったりとか。でも、大人は「危ないから」と言っさせませんよね。このように子どもがやってみたいことを大人が制限してしまうことがあります。体験して初めて本当に「危ない」「失敗したら怪我をする」ということが分かったりもします。

私はそうした経験は子ども達の成長には

遊びを考えるキッカケ



おかもまプレーパーク
プレーリーダー
久保田 将裕
(マッキー)

これだけの人が集まると遊び場の変化も早く、あつちもこつちも「やってみたくなる」ことばかり。挑戦して、出来たり、出来なかったり、あつという間の1日だったと思います。そして子どもたちが群れて遊ぶと、その周りにできる見守る大人の輪。

とても素敵だなと思いました。片付けでは「もう1日ほしいな」片付けるのはもつたないな」と思っていました。が、はがしたテープを丸めてボールにするなど、それを楽しんでる子どもたち。子どもの力に驚きました。

キッズフェスティバルが遊びを振り返るキッカケになつてもらえていれば嬉しいです。キッズフェスティバルだけではなく、いつも遊ぶ地域や公園がもつともつと楽しくなるようにみんな子どもが遊べる街を作っていきたいと思います！

不可欠であると思っています。危ない遊びをさせましょうというわけではなく、出来るだけ「子どもが自由にやってみたいことを考えチャレンジする」という遊びの考え方が大事だと思います。キッズフェスティバルで感じた「楽しい！」が、日常生活の中でも広がっていくことを願っています。

編集後記

5月5日の新聞各社の社説で子どもが育つ環境が厳しさを増している今日、大人が社会の問題を一人ひとりの問題として考え、動きをつくっていくことの必要性が書かれていました。子どもが夢を語る事ができる社会を作るためにも、優しいまなざしの大人を増やしていきたいと思っています。
(Y)